

第3回高砂市新たな学校づくり推進審議会 会議録

日 時 令和7年5月26日（月）19時00分から

場 所 高砂市役所分庁舎1階大会議室

出席者

【委員】（名簿順、敬称略）

押田 貴久、安枝 英俊、塩田 和子、坂牛 裕、坂田 克己、橋本 尚人
三好 美弥、衣笠 彩、八木 直子、大谷 敬一郎、塩谷 右京、川由 伸一
砂川 辰義、山里 護

【事務局】

玉野教育長、木田教育部長、吉金教育推進室長、平山学校教育室長
竹内教育総務課長、石原教育総務課主幹、長谷川教育総務課係長、井上教育総務課職員

【事業者】

ファインコラボレート研究所（土肥）

欠席者 1名

傍聴者 0名

内 容

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 議題
 - （1）市民説明会の開催結果について
 - （2）第4期高砂市教育振興基本計画について
 - （3）高砂市立学校の現状と課題について
 - ・多面的な実態把握
 - ・学校施設・運営面での教育課題
 - ・まとめ
 - （4）意見聴取について
- 4 閉会

資 料

【事前配付】

高砂市新たな学校づくり推進審議会（第3回）次第

資料1 みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～高砂市の学校の現状とアンケート調査報告会～まとめ

資料2 多面的な実態把握

資料3 学校施設・運営面での教育課題

資料4 将来推計、多面的な実態把握、学校施設・運営面での教育課題からのまとめ
別冊資料 第4期高砂市教育振興基本計画【ダイジェスト版】

【当日資料】

資料5 高砂市新たな学校づくり推進計画策定等業務工程表（令和6・7年度）

資料6 意見聴取について

資料7 高砂市新たな学校づくり推進審議会委員名簿

資料8 高砂市新たな学校づくり推進審議会 座席表（令和7年度）

1 開会	
事務局	机上に資料 5 から 8 を置いております。また、この度新しく委員になられた方につきましては、辞令も併せて配付しております。 前回同様、審議会の様子を撮影させていただきたいと思いますので、支障がございましたら、事務局にお申し付けください。
会長	高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第七条の規定に基づき、今回の審議会は公開とします。傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	傍聴の申し出はありませんでした。
会長	委員の出欠状況をお願いします。
事務局	市民代表の實川委員は欠席との連絡をいただいております。
会長	1 名の委員が欠席ですが、過半数の委員の出席をいただいておりますので、高砂市新たな学校づくり条例第六条第 2 項により、本会は成立しております。 それでは、第 3 回高砂市新たな学校づくり推進審議会を開会します。
2 委員紹介	
事務局	役職の変更等で 3 名の委員が変更になりましたので、委員名簿に沿って、一言ご挨拶をお願いいたします。
(委員及び事務局挨拶)	
3 議題 (1) 市民説明会の開催結果について	
会長	議題 (1) 市民説明会の開催結果について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料 5 高砂市新たな学校づくり推進計画策定等業務工程表 (令和 6・7 年度) をお願いします。 一番下に住民説明①と記載しておりますが、今年 2 月、「みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～高砂市の学校の現状とアンケート調査報告会～」と題しまして、中学校区を対象に計 6 回市民説明会を開催いたしました。 資料 1 みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～高砂市の学校の現状とアンケート調査報告会～まとめをお願いします。 この市民説明会は、新たな学校づくりのさらなる周知や小中学校の現状を共有することを目的に実施しました。各回の実施日、場所、参加人数、いただいたご意見やご質問、回答を掲載しています。報告会全体の参加人数は計 72 名という結果でしたが、各回いずれも活発にご意見、ご質問をいただくことができました。 いただいたご意見は、今後の審議会の検討の際に活用させていただきます。今後も適宜市民の皆様にご報告する場やご意見をいただく機会を設けて参りますが、より多くの皆様にご参加いただけるような工夫が必要だと考えておりますので、委員の皆様には引き続きお声掛けなどご協力いただければと思います。説明は以上です。
会長	参加された委員、いかがでしたか。
委員	参加人数が少なく、驚くほど関心がないなという印象です。
会長	地域の方の納得感や疑問感はありましたか。
委員	特になかったです。
委員	支援を必要としている子どもが増えているので、支援学級についてすごく気にされていました。
会長	支援学級がかなり増えていることについても皆さんからご意見をいただけるとありがたいと思います。
委員	周りに参加の声掛けをしましたが、何それという方がいたので、周知が全然足りていないと思いました。また、学校側が努力されているのに全然理解されておらず、参加されている方の中で実情との乖離がありました。

会長	学校の様子を知っている方とそうでない方での乖離は、どうしても起こりうることなので、その差を少しでも埋めていく努力が必要だと思います。
委員	通っている保護者、今後通うことになる保護者が少ないことは、関心が低いということだと思います。また、参加された方の印象だと、2時間では足りず、別の機会があればありがたいとの意見もありました。
会長	得られた情報をもとに、今後に向けて対応策を考えていただければと思います。
3 議題（2）第4期高砂市教育振興基本計画について	
会長	議題（2）第4期高砂市教育振興基本計画について、事務局から説明をお願いします。
事務局	別冊資料 第4期高砂市教育振興基本計画【ダイジェスト版】をお願いします。 市が目指す教育の方向性や今進めている取組を示すのが高砂市教育振興基本計画であり、高砂市における教育振興のための施策に関する基本的な計画です。第4期は令和7年度から令和11年度の取組を定めています。「思いやりとたくましさをもち、ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む」を基本理念とし、2つの目指す人間像と3つの基本目標を掲げています。 次のページをお願いします。 基本目標1 学校教育として、「一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進」を掲げ、1-1から1-3の3つの基本的な方針と、それぞれの方針に基づき、1-1-1から1-3-2までの主要な取組みを定め、取り組んでいます。また、達成度を測る指標（KPI）を定めまして、毎年取組が進んでいるのかチェックを行います。右側に力を入れるポイントとして、主要な取組をどう進めていくのかを明記しています。力を入れるポイント1つ目にあるように、高砂市では、主体的・対話的で深い学びを実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとともに、ICTを効果的に活用してまいります。2つ目、産学官民と連携した探究的な学びや体験教育・キャリア教育を核とした学びを推進してまいります。下から2つ目にございますように、義務教育9年間の「学び」と「育ち」の系統性・連続性を重視して、中学校ブロックの連携を図り、特色のある質の高い教育を行ってまいります。その他の主要な取組についても力を入れて進めてまいります。 次のページをお願いします。 基本目標2 教育環境として、「多様性を包み込み、だれもが安全・安心と幸せを感じる教育環境の創造」を掲げ、2-1から2-3の3つの基本的な方針と、2-1-1から2-3-3まで主要な取組を定めています。なお、新たな学校づくり推進計画は、基本的な方針2-3、未来を見据えた学びの場としての環境の充実に基づきまして、主要な取組 2-3-1、未来を見据えた学校施設等のあり方の検討として挙げております。力を入れるポイント1つ目にあるように、高砂市では特別な支援や配慮を必要とする児童生徒が「分かる」「できる」「楽しい」を実感できるよう、一人ひとりの個性や教育的ニーズに応じた学びを推進してまいります。5つ目にあるように、業務改善や学校全体の働き方への意識改革に取組み、教職員が子どもと向き合う時間の確保と質が高まることにより、健康でやりがいを感じながら働くことができるよう教職員のウェルビーイングの向上を目指します。一番下にあるように、安全・安心で、より快適な教育環境の実現に向けて、計画的な教育環境の整備を行うとともに、学びの充実に向けた教育環境の見直しと対策の検討など、学校に好循環を生み出すための検討を行ってまいります。その他の主要な取組についても力を入れて進めてまいります。 最後のページをお願いします。 基本目標3 生涯学習として、「生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる生涯学習の充実」を掲げ、3-1から3-3の3つの基本的な方針と、3-1-1から3-3-3までの主要な取組を定めております。力の入れるポイント1つ目にあるように、高砂市では、地域と学校がパートナーとして連携・協働しながら、こどもた

	ちの豊かな学びや成長を支えていく地域とともにある学校づくりを一層推進してまいります。3つ目にあるように、こどもたちがスポーツや文化活動に継続して親しむ機会を確保するために、地域との協働や地域の人材を活用した部活動の地域展開に向けて環境整備に取り組んでまいります。5つ目にあるように、充実した大人同士の学びや、こども同士の学び、大人とこどもの学び合いの場となるよう、学校施設の地域開放のあり方を検討してまいります。その他の主要な取組についても力を入れて進めてまいります。説明は以上です。
会長	これが今後の一つのベースとなりますので、この方向性に添いながら、新たな学校づくり推進審議会で議論ができればと思っています。
委員	「ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む」とありますが、高砂の今と未来を創らないとダメみたいなことはあるのでしょうか。
会長	それに限定していません。
委員	高砂で生まれたから高砂の未来を創るというのがズレているのかなと思います。ICTを有効活用するということですが、実際にそのICTに優れた教員を見たことがないです。現在、AIやChatGPTが非常に急速に進んでいる中で、人材をできるだけAIで賄っていくというようなチームは存在しないのでしょうか。それを行えば非常にコストカットになると思いますが、どうでしょうか。
事務局	ICTに長けた人材チームは整っていないですが、学校にICT支援員を派遣しており、学校教職員と連携しながら進めています。ICTの活用自体も教職員にタブレットが導入されて時間が経ちますので、ある程度の力がついてきていると思います。しかし、授業に有効活用するということでは、支援員の力を借りながら進めているところです。
委員	毎回同じ先生がホログラム等の技術で楽しく上手に話をして授業してくれたらわかりやすいと思います。教員は、教室で暴れる子やついていけない子などをバックアップするような形態にすれば、人材の使い方が変わってよりいいのではないかなと思うので、お金がない中でこの急速に広まっているAI技術を使っていく考え方がないのかなと思います。教育理念の「ふるさと高砂」はノストラジックで良いですが、少し違うと思います。今の世の中、世界に羽ばたかせていくぐらいの勢いで育てていかないと、この日本だけで留まっていたは全然ダメな状態ですので、その辺りの認識が全然違うかなと思っています。
委員	学校のICT活動は委員が思われている以上に高砂市は進んでいます。文部科学省の調査でICT指数が発表されており、高砂市は関西地方のベスト5に入っています。委員が言われるとおり、AIはプラス、マイナスのところがああり、学校は保守的なところもあるので、アーリーアダプターの的な人達が教育で使い、先行事例をどんどん生み出していると思っています。小学校3年生がキャンバーと呼ばれるAIのプログラムを使っのプレゼンや動画編集をしている市はないかなと思います。義務教育を卒業すると、我々が考えている以上にAIを慣れ親しんで使っていける子ども達になっていくのではないかと期待しています。委員が言われるとおり、先生がそこまで子ども達を指導するというのは厳しいと思いますが、モラル面や使い方を誤っているところをサポートし、どんどんICTを使っていける環境を高砂市が整えていくことで、高い確率で他の市町よりICTに長けた人材が輩出されるのではないかなと思います。すぐには結果が見えないかもしれませんが、マイクロソフトとかGAFAまではいかずとも、そういったところの一員として働いてくれるよう、我々は信じてICT教育は進めていますので、もう少し時間をいただければと思います。
委員	教育現場でICTを使っていることは良いと思いますし、優秀な方が上手に子どもをコントロールして、良い面と悪い面について指導してくれたらと思います。先生方の業務や人件費を削減する方向でAIを使えないかと考えていて、人間が授業するに越したことはないですが、ホログラムの技術で分かりやすく教えてくれるというようなスタイルもあるのかなと思います。教員のレベルアップを待たずと

	も、優秀な AI の先生が授業を教えてくれて、人間は授業に付いていけない子どもや落ち着けない子どものバックアップに力を注ぐとかができると思います。
教育長	「今と未来を創る人」というのは、高砂に縛り付けて人材を育成するというものではないことをご理解いただきたいと思います。AI 活用や ICT に長けただけではなく、スポーツ等でも自分の持っている才能をもって世界へ出ていってもらうようなイメージを持っており、自分の良さをもっと発揮できるような人材をつくりていきたいと思っています。 将来的に AI を活用して教育をすることが出てくるとは思います、現在は対話型の授業を進めていくことで考えています。未来を考えたときには、そういうことになってくると思うので、情報活用能力を育むことも進めています。
会長	AI の活用は考えている人達は多くいますが、今後 5 年間でできるかという、そうはできないと思います。
委員	5 年後に建てる建物が、10 年後、20 年後に適応した建物にしようというのが今回の目的であるので、20 年後、30 年後を見て話を進めないといけないと思います。現在、対応できないからと言って、全部それに対応できない施設が出来上るのではないかと懸念しています。事後改修が必要になるということでは困るので、初めから未来を想定したような機能を入れておかないといけないと思います。
3 議題 (3) 高砂市立学校の現状と課題について	
会長	議題 (3) 高砂市立学校の現状と課題について、事業者から説明をお願いします。
事業者	資料 2 多面的な実態把握をお願いします。 1 ページをお願いします。“地域状況”について、8 つの地域別に特色を整理したものです。 棒グラフは地域別の人口推移で、真ん中を現在として、右側は将来予測となっており、中筋地区を除くすべての地区で右肩下がりとなっています。また、伊保地区や米田地区に人口が集中しており、中筋地区や北浜地区は約 5,000 人と少ないことも分かります。 地図の下地は、地理的特性を表現しており、阿弥陀地区の北側は、山林地域と市街化調整区域が大半を占めています。高砂・荒井・伊保・曾根地区は、地区の南側が工業専用地域等となっており、人がほとんど住んでいません。 このように、土地利用も住宅地、商業地、工業地、農地、山林などさまざま、地形的な分断や市街地の連続性なども、今後の通学区域の検討時には配慮が必要な事項と考えます。 2 ページをお願いします。2 ページから 7 ページまでは中学校区ごとに“通学区域の現状”を整理しました。 2 ページは「高砂中学校区」で、紫色のラインが高砂小学校の通学路となっています。赤丸は、通学路として設定されている場所で最も遠い地点をプロットしており、高砂小学校区では 1.4km となっています。 3 ページは「荒井中学校区」で、ピンク色の荒井小学校区とオレンジ色の伊保小学校区の一部から進学していることがわかります。 その他のページも同様になっておりますので、ご確認ください。 7 ページは「鹿島中学校区」で、緑色の阿弥陀小学校区と黄色の北浜小学校区から進学していることがわかります。いずれの小学校も、通学路として設定されている場所で最も遠い地点は 2.4km で、市内で最も長い通学距離となっています。北浜小学校や鹿島中学校への通学に隧道を通っている児童生徒もいます。 このようなデータを活用して、通学路の課題整理や通学環境の安全面の検証を行い、新たな通学路の設定や通学手段の検討に活用していきます。 8 ページをお願いします。学校に係る総コストの把握です。 学校には、建物の建替えや修繕といった施設整備に係るコストだけでなく、管理

運営面や ICT 等の新たな学習など、さまざまな教育活動に係るコストもあります。教職員の人件費まで含めた学校に係る総コストは、小・中学校全 16 校で年間 64.5 億円、小学校・中学校ともに 1 校平均で 4.0 億円となっています。同じ規模の自治体で同様に把握すると、平均 1 校当たり 3～5 億円であることから、高砂市は平均並みと言えます。

資料 3 学校施設・運営面での教育課題をお願いします。

1・2 ページをお願いします。現在、教育現場で直面している日々の運営からみられる課題について、第 2 回の審議会では、①特別支援教育・②不登校対応等について説明しました。今回は、残りのピンク色の項目について説明します。

3 ページをお願いします。「外国につながる子ども」についてです。

高砂市では、外国につながりがあり、日本語の指導を必要とする児童生徒に対し、小中学校へ日本語指導協力者を派遣するなど、日本語指導や学習支援等を行っています。折れ線グラフにあるように、日本語指導が必要な児童生徒は 10 人未満ですが、増加傾向にあり、取り扱う言語も多様化しているため、入学状況によって年度ごとに対応が必要です。

4 ページをお願いします。「多様な学びに対応できる教室」についてです。

中央教育審議会が文部科学省に対して、令和 3 年に「令和の日本型学校教育」の構築を目指してと題した答申を行い、GIGA スクール構想による一人一台端末の実現を踏まえて、個別最適な学びと協働的な学びの両方を推進していくことを打ち出しています。

高砂市でも、議題（2）で説明のあった「第 4 期高砂市教育振興基本計画」で、同様の方向性が示されており、加えて、体験活動を大切にしたい探求的な学びを推進していくとしています。

個別最適な学びといった多様な学びに対応しやすい諸室として「多目的室」が挙げられますが、すべての学校で確保できているわけではありません。今後の施設整備では、教室を多様な学びに対応できる仕様としたり、1 校あたりが保有すべき教室等の整備水準を整理した上で、間仕切り等を活用してフレキシブルに使える教室を複数配置していくことなどが必要になると考えられます。

5 ページをお願いします。「少人数指導」についてです。

高砂市では、1 クラスあたり小学校 35 人、中学校 40 人で学級を編成しています。少人数指導とはそれより少ない人数で、例えば、1 つの学級を習熟度別に 2 つのグループに分けたり、2 つの学級を 3 つのグループに分けて授業を行う形態・方法をいいます。

2 月に開催した市民説明会でも、少人数指導に関するご意見などが出ていましたが、高砂市では、兵庫型学習システムの教員加配制度を活用して、主に中学校で少人数授業を実施しています。

6 ページをお願いします。「教職員の負担軽減/働き方改革」についてです。

公立小中学校の教職員は、標準学級数に応じた算定基準に基づき、県により配置されており、左側が兵庫県の基準、右側がその基準に基づいて配置されている高砂市の教職員数です。先生方が行う業務は、学級数が多くても少なくとも大きく変わることはありませんので、職員数が少ない学校では、一人ひとりの業務負担が多くなってしまうことになります。

7 ページ左下の円グラフをお願いいたします。教職員の年齢構成別のグラフですが、令和 6 年度は 40 歳未満の教職員が全体の約 6 割を占めている状況です。このような状況は、教育技術の伝達が難しく、人材育成が難しくなると考えられ、40 代以上の中堅層の教員の負担が大きいと考えられます。

右側は、年度別・月別に 45 時間以上の超過勤務をした教職員の割合を示すグラフです。小中学校別では、中学校の教職員の方が 45 時間以上の超過勤務が多いことから、部活動の地域展開等による対応を進めていく必要があります。こうした状況に対応するため、8 ページにありますように、高砂市では、教職員の働き方改革に向け、さまざまな取組みを始めているところです。

9 ページをお願いします。「部活動の地域展開」についてです。
高砂市では、令和 10 年度に向け、中学校の部活動の地域展開への取組みを進めています。今後は、地域展開における学校施設の利用のあり方などを含めた様々な課題について検討を進めていく必要があります。スマートロックは教職員による鍵の受け渡しなどが不要となり、教職員の負担軽減に繋がると考えられます。

10 ページをお願いします。「学校運営協議会」についてです。
高砂市では、学校・家庭・地域が連携して「どのような子どもたちを育てるのか」等の目標やビジョンを共有し、学校の様々な課題の解決に向かって協働する仕組みである高砂型学校運営協議会を令和 4 年度から取り組んできましたが、令和 7 年より法律に基づいた学校運営協議会を設置しています。
高砂市の学校運営協議会には、学校単独での設置と、中学校区単位での設置がありますが、人員確保の視点や高砂市の学区特性から、中学校区単位での設置に改編することで、地域との結びつきをより強くする方策も考えられます。

12 ページをお願いします。「災害時における学校の避難施設利用」についてです。
右側の地図にありますように、市立小中学校 16 校のうち、阿弥陀小学校と鹿島中学校を除く全 14 校が洪水浸水想定エリアとなっています。特に、加古川と法華山谷川に挟まれた区域においては、想定浸水深が高くなっています。今後の再編検討時には、避難所としての学校施設の在り方や洪水を想定した整備水準も合わせて検討する必要があります。

13 ページをお願いします。「ICT 化への対応」についてです。
令和 3 年 12 月より、全小中学校で 1 人 1 台端末の導入が完了し、令和 5 年には通信回線も改善されて、全校で一斉に活用できるようになりました。右側に ICT 機器の活用についてのアンケート調査結果をお示ししています。児童生徒ともに全ての項目で 70%以上と満足度が高い結果となっています。
今後、導入した機器の更新や ICT 環境の更なる充実に向けた整備が必要になってきます。

14 ページをお願いします。「プールの状況」についてです。
高砂市では、すべての小中学校で学校プールを保有していますが、小学校では建築後 60 年を経過した学校が 4 校あり、更新が必要な状況です。

15 ページをお願いします。「プールの稼働状況」を整理したものです。
プール指導は、おおむね小中学校ともに 6 月中旬から 7 月中旬までの 1 か月間となっています。学校プールはいずれも屋外プールのため、施設の老朽化や猛暑時は熱中症リスクが高まるなど、さまざまな問題があります。

17・18 ページをお願いします。「他市の取組例」を整理しました。改善方策として、例えば、民間スイミングスクールへの授業委託や、拠点校方式で近接する学校のうち 1 校に共用プールを整備するなどが考えられます。

19 ページをお願いします。「学校給食」についてです。
小学校は、全校で自校式給食を行っています。しかし、給食室は 6 校が築 40 年を経過し、そのうち 4 校では築 50 年以上となっているため、施設面・設備面からも更新検討が必要な時期となっています。
中学校は、令和 2 年度より給食センター方式となっており、高砂中学校を除く 5 校に配食を行っています。

20 ページをお願いします。「他の公共施設との複合化・共用化」についてです。
高砂市における学校施設と他の公共施設との複合化は、現在は学童施設のみとなっています。多くの小学校で余裕教室や小学校敷地内専用プレハブに学童保育専用室を設置し、複合・併設されています。

21 ページをお願いします。「その他の施設と複合化している他市の例」を整理しています。
高砂市は、学校も含めた公共施設を約 30 万㎡保有しており、学校施設はそのうち 45%と最も多くの割合を占めています。集約化・複合化にもさまざまなパター

	ンがあるため、公共施設のなかでも重要な学校をうまく有効活用することも重要な視点となります。 資料 4 将来推計、多面的な実態把握、学校施設・運営面での教育課題をお願いします。 将来推計からは、市全体の児童生徒数はピーク時から約 57%減少しており、再編検討を行う時期を迎えていること、学校別では、20 年後には 3 つの小学校で全学年 1 学級になる予測であるなど、小規模校化が進行している状況であることを確認しました。 通学区域・学校配置からは、近接する学校もあるため、将来推計に応じた通学区域の見直しが必要であると考えられます。また、現在の学校区は昔の旧町村界がベースとなっていますが、生活圏域や今回お示した地域状況などを考慮しつつ、学区を越えた見直し検討が必要になってくると考えられます。 学校施設・運営面での教育課題では、近年ニーズが増加している特別支援教育や不登校支援、少人数指導、他の公共施設との複合化・共用化など様々な課題がありますが、これらについても学校再編とあわせて、今後の在り方の検討が必要な状況です。 施設状況は、築 40 年以上経過した建物が 6 割を超えており、多くの学校で老朽化が著しいため、早急な対応が必要な状況です。アンケートでは、体育館、特別教室、トイレに改善の要望が集中していました。 こうしたさまざまな課題に総合的に対応していくためには、第 4 期高砂市教育振興基本計画を念頭に、『これからの学校像』について審議会で議論していただくとともに、『これからの学校像』の実現に向けて、施設の老朽化対応と学校再編の検討をあわせて行っていくことが非常に重要となります。説明は以上です。
会長	様々な諸条件を踏まえて、高砂市の『これからの学校像』を打ち出していきたいと思います。
委員	プールの老朽化の話がありましたが、先生方の負担軽減という形で水泳の授業をスイミングスクール等に委託することは考えているのでしょうか。
事務局	プールの水質の管理や施設の管理など、もちろん子ども達の安全を確保するというところで先生方の負担は非常に大きいです。加古川市は現在民間プールへの委託の実証実験をされていますが、高砂市においても、こういった課題は解決しなければならないので、他市の状況を見ながら現在検討を進めているところです。
委員	改修や新たに建築するには費用がかかるので、費用対効果も含めて検討していただきたいと思います。
委員	適正規模適正配置を打ち出し、建物や AI は後付けで考えながら学校としてどうあるべきかということを考えていく必要があると思います。また、どこの学校をどうするかというイメージがなければなかなか難しいと思います。
事務局	再編を考える際には児童生徒数の推移だけでなく、必要なキャパやどんな機能が必要か検討することによって今後の統合再編につながると考えます。
委員	各委員から教育の中身にまで踏み込んだ意見が出てくるのか疑問です。
委員	部活動の地域展開について民間に任せるのは良いですが、任せた団体が講習を受けているのか疑問に思います。 プールは防災教育に大切なことなので、津波が来たら泳げない子どもがいるのもおかしいし、学校が浸水地域だということもありますので、その辺について考えないといけないと思います。 早く再編しないと子どもが少なくなる学校がありますので、学校を建てるのではなく、今ある学校を改修することも含めて考えたらどうかと思います。
委員	学習指導要領に水泳授業は明記されていますし、救命に関わること、防災に関わることなので一部の大学教師はプール授業をなくすことを否定しています。ただ、コストのことを考えると、どこか一か所にセンターのような温水プールを作って、市内小中学校全てがそこで授業をし、集中的にコストを投入するほうがい

	いかなと思います。それがどれだけ費用対効果になるかわからないですが、水泳の授業を疎かにしてはいけないと思います。教職員の負担を考慮していただいているのは大変ありがたいですが、それが仕事なので、やるべきことはしっかりやる必要があります。
委員	無関心の方が多すぎると言われているのでいろいろ考えましたが、教育センターでの実施はハードルが高いというか、気軽に参加ができない印象を受けます。自分の子どもが通っている学校で説明会があったら行ってみようかなと参加意欲が出たりすると思いました。
委員	高砂地区は小学校と中学校、それから小学校とこども園、中学校とこども園もよく交流を行っており、隣接していることが強みだと思います。小中一貫教育をこども園から15年間、子どもの育ちを見据えた計画、カリキュラムを組んで行っていますので、そういう校区の特色も教育課題に入れていただけたら嬉しいです。
委員	新たな学校づくりは教職員の負担軽減になると思いますが、より良い教育を行うという意味で、人員体制の確保が必要だと思います。
委員	子どもは減っていますが、支援が必要な子どもは増えており、支援が足りてないとの声は身近でもよく聞きます。新しい学校をつくって大きな学校ができると、支援が必要な子達の課題がさらに増えると思いますので、ソフト面をより充実させながら、ハード面を考えなければ、子どものための教育にはならないのかなと感じました。 市民説明会に関心がないという話がありましたが、本当に関心がないのかと言われると関心があってもその場に行きにくい、興味があっても子育てが手一杯で未来のことを考えようとなるまで難しいと思います。
委員	児童生徒数がピーク時から57%も減っているのを見て衝撃を受けましたので、危機感を覚えるために具体的な数値を知らせたらよいと思いました。
委員	ある程度の青写真が必要だと思います。高砂市の人口は社人研の推計通りに減っていて、あと5年後には7万人ちょっとになり、子どもの数も減っていく推計です。ただ、0歳から9歳の子どもの数が若干増えているので、現役世代、子育て世代を呼び込んで、子どもの数が増えることに期待したい。ただ、年齢によっては子どもの数は減っていくので、どことどの学校を統合するかよりも、将来的に小学校数や中学校数をどれぐらいにするのかをある程度決めて、それに合わせた考え方も必要になりますし、公共施設に関しても合わせて考えていかないといけないと思います。公共施設と学校を一体型で考えていくのであれば、学校と地域交流センターを一緒に整備していく形で複合的な検討をすることも一つの方法であると思います。 他の学校は統合しようと思えば統合できると思いますが、北浜地域は陸の孤島で、山や川に囲まれて遮られています。もともとは大塩中学校区でしたし、生活圈域も阿弥陀のイメージがあります。この地区は特殊だと思いますので、その辺も考えながら、どのようにしていくのか考えていかないといけないと思っています。
委員	子どもが40年後には半分になることがわかっているので、将来何校になるかというのは、決定しているのではないかと考えています。北浜地区でいうと、フレキシブルに姫路市との統合という案もあると思いますし、最終的にはバスしかないと思いますが、バスを使う話はないですか。
委員	通学距離が長くなれば、子ども達が安全に通えないということもありますので、こういった手段を追加する必要があるのかも検討する内容だと思います。
委員	既存施設をできるだけ使うという考え方をもち、この部分だけうまく使っていくような考え方はありますか。高砂市にお金がないことからこの話が始まっているので、コストをかけずに、子どもが減った状態の学校規模をジャストサイズにすることが一番いいと思います。

	北浜からでも自転車を使えば、中学生はバスを使わなくてよくなりますので、学年や学校のキャパシティに合わせて使い分けをしていくことが必要だと思います。もしスクールバスが走れば、おじいちゃんおばあちゃんも乗せられると思います。混乗ができれば地域交流も一緒にでき、良いのではないかと考えます。学童は基本的に空き教室を使うことになりますが、高砂市は空き教室がかなり少ないので、民間に委託してしまえば何の問題もないと感じています。
副会長	学校での子ども達の過ごし方、学び以外の過ごし方について、少し想像的なわくわくさせるような話があったほうがいいかなと思います。例えば、小学校はクラスの枠組がすごく強く、クラス替えをすると基本的に同じクラスの中で友達を作っていくことになります。そのクラスの枠があることが教育上大事なこともあります。窮屈に感じたり子ども同士の交友関係を固定させたりすることもあると思いますので、クラスは何のためにあるのかみたいなことを見直すことが大事かなと思いました。 最近新設された他市の小学校は、授業をする部屋と廊下の間に壁がないオープンスペース形式になっていて、多様な学びの場となっています。教室の中だけだとしてもできることが限られますので、少し広めの廊下を作っておいて、廊下と教室を一体的に学ぶ場にするとか、廊下のスペースが教室と教室をつなぐ場所になったりとか、あるいは2クラスで一緒に授業ができるタイミングがあったりという事例も出てきていると思います。今の話は授業のやり方になりますが、授業のために作ったオープンスペースみたいなものが、子ども達がクラスの枠を越えた交流や子ども同士のつながりを作るといった授業以外での過ごし方の部分も見たほうがいいと思いました。一方で、子ども達が学校で過ごすとき、教室の中で休み時間を過ごすのか、運動場に行くのかというのがよくあります。最新の先進的な事例をみると、できるだけ子ども達が教室の中で閉じこもらないように休み時間は少しでも外に出てもらいたいけど、運動場まで行くのは大変だということに、教室のすぐ近くに木陰で休める中庭みたいなものを作るなど、子ども達の居場所も教室か運動場かではなくて、子ども達は多様な居場所を求めているような気がします。そういうことを視野に入れることを、課題の中に入れたほうがいいかなと思いました。今年度中に小学生に対するヒアリングを行うと思いますが、学校施設・運営面での教育課題を子ども達に聞いてもなかなか出てこないと思いますので、クラスでの過ごし方や、友達の作り方、休み時間の過ごし方みたいなことについて、どうなると良いと思うとか、どういうことがしたいのかということを知ることがあるなら、バックグラウンドになる話は資料の中に入れても良いのではないかなと思いました。
事務局	児童生徒数の減少から単純に再編を考えるのではなく、減ってきた子ども達をどのように育てていくのか、どのような環境でどう育てていくのかということを我々は考えていかなければいけないと考えています。また、施設は非常に老朽化が進んでいるため、20年間に建て替えか、大きな改修が必要な施設ばかりですが、それも踏まえて、いろいろな課題がわかった上で計画を進めていくことが重要であると思っています。今年度は、これからの学校像を検討していただき、基本計画を作っていくという流れで進めていきたいと考えています。 今回の説明会にご参加いただけなかった理由は何だろうなということを考えたときに、題名が悪かったと思います。注目を引くような名前ではなかったし、子どもを連れて参加したい保護者のための子どもスペースを作りましたが、足を運ぶこと自体の大変さは当然あると思いますので、その対応を考えたいと思います。 学童は基本的に学校に集約する方針ですので、増えてきたら学校と一緒に協議しながら、校舎の中に入れる方向で取り組んでいます。新たな学校づくりにあっても、学童のことについて検討したいと考えています。 自転車やスクールバスについては、年齢に応じて対応が必要だと思っていますので、そのあたりも検討に入りたいと思っています。

	旧荒井幼稚園は、荒井小学校の校舎ということで一部を学校が使用し、一部を児童に貸すような形で進めようとしております。今後は、学校施設に限らず、その他の公共施設の状況を踏まえた柔軟な検討は必要だと思います。
委員	資料を見て、問題点や今考えられること、自分達が考えられる意見に対して集中的に議論し、何を議論して、どういう結果で、この会議の答えが何かを1回ずつ出していくという積み重ねが、最終的な方向性を決めて進むべき道だと思います。 5メートル先や100メートル先の話をしている人もいたので、送られてきた資料を基に、頭の中を整理したり、いろんな意見を聞いたり、自分の地域の意見を集めて、この会議に持ってきていただくとスムーズに会議が進められると思います。
会長	これからの学校像を色々と出していただきながら、最終的に集約したいと思いますので、会議以外でも意見があれば、事務局に連絡していただき、次の議題で取り上げたいと思います。
3 議題（4）意見聴取について	
会長	議題（4）意見聴取について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料5をお願いします。児童生徒数・学級数の将来推計や多面的な実態把握、第4期高砂市教育振興基本計画を踏まえて、新たな学校づくり推進計画の作成にあたっての基本的な方針となる「適正規模・適正配置基本方針」についてご審議いただきたいと考えております。次回の第4回より各テーマについて協議し、“高砂市としてこれからどのような教育を目指して、また、そのために学校施設はどうあるべきか”ということを共有し、方針案として取りまとめたいてと考えております。今年の12月頃には「適正規模・適正配置基本方針」を審議会案としてまとめ、教育委員会に報告し、令和8年2月頃に教育委員会の方針として決定したいと考えております。なお、令和8年度以降ですが、今年度、基本方針を策定しまして、それに基づいて具体的な小中学校の再編案を検討していくと考えております。それと合わせて、各小中学校をいつどのように整備、再編していくのかといったロードマップを作成いたします。最終的には、令和9年9月末に「高砂市新たな学校づくり推進計画」として決定していくという予定で進めてまいります。 資料6をお願いします。今年度の5月から10月にかけて実施する意見聴取について説明します。児童生徒・教職員・市民等を対象に意見聴取を実施し、いただいたご意見を第4回から第6回の審議会における「適正規模・適正配置基本方針」の検討に活用することを目的としております。方法（案）として、（1）児童生徒に対しては、①ワークショップと②ヒアリング調査で実施したいと考えております。①ワークショップは、子育て支援課が毎年開催する「市長と話そう！ワークショップ」で実施したいと考えております。詳細は現在調整しており、第6回の「これからの学校像の見える化」の検討に活かせるような内容にしたいと考えております。時期は8月を予定しておりますので、次回の審議会での詳細をご提案したいと考えております。②ヒアリング調査は、小学校は児童会などで6月から7月にかけて、中学校はいきいき生徒会という全中学校の生徒会の方々が集まる場が8月にございますので、その終了後に伺いまして実施したいと考えております。内容は学習空間や学校における自分の居場所、児童生徒間の交流、先生や地域との交流、授業以外の過ごし方などをお聞きできたらと考えています。 （2）教職員への意見聴取は、①アンケート調査と②ワークショップにより実施したいと考えております。①アンケート調査は、あらかじめ各学校から7名から8名を校長先生よりご指定いただきまして、指定を受けた先生方により回答していただくことを考えています。内容は小中学校の適正規模の範囲や少人数教育、小中一貫教育の運営形態など、第4回、第5回の内容についてご意見をお聞きしたいと考えております。②ワークショップは、①の結果をまとめたものをもとに

	各学校の教頭先生方で組織する教頭会の開催時に実施したいと考えております。教頭会は6月25日と7月23日を予定しております。 (3) 市民等への意見聴取については、9月後半頃に市内の2か所で1回ずつ、もしくは1箇所でも2回開催して、いずれも同じ内容で誰でも参加可能なワークショップを行いたいと考えております。学校運営協議会・保護者・こども園の先生・若者・その他市民といった多様なものとなるよう、地域に偏りがないようにするにはどうしたらよいか工夫したいと考えております。内容は第6回の審議会で検討する「これからの学校の見える化」に反映できるような内容にしたいと考えております。また、いくつかのテーマを設定し、テーマごとにブースを設置したり、ご意見をいただく時間をできるだけ長く取ったりという工夫をしたいと考えております。詳細については、第4回もしくは第5回でご説明・ご提案したいと考えています。 その他、ワークショップの場に足を運べないという方々もいらっしゃいますので、いつでも意見や質問が提出できるフォームをホームページに作りたいと考えております。また、高砂市まちづくり出前講座に登録しておりますので、広く周知し、みんなで集まったから意見を聞きたい、どんな状況か聞きたいという方には教育総務課から足を運びまして、ご意見を伺っていきます。説明は以上です。
委員	質問やいただいた資料の疑問点を事前に送ってもいいのでしょうか。
事務局	ぜひいただきたいと思います。いただいたご質問等は次の審議会で共有できるような流れにできたらなと思っています。
委員	第4回の審議会は、適正規模・適正配置の具体的な案に対して議論する形になるのでしょうか。
事務局	第4回で議論する適正規模・適正配置は、再編案とは違い、学校の規模として、1学年何クラスぐらいがいいかといった内容や通学距離についてです。具体的にどこ小学校とどこ小学校が統合するという話は、来年度に入ってからになります。
委員	ある程度の答えを準備してきた方がいいのか、皆で話し合っ形を作っていくのが良いのかどちらですか。たたき台を事務局が用意してくれるのか、各委員が1クラスの人数や通学路の距離の案を自分なりにまとめて案を出したほうが良いのでしょうか。
会長	国が示している基準をベースにしながら、高砂市としてどうするのかを事務局のたたき台を基に検討していきますが、各委員の意見も伺います。
委員	意見が欲しいと言われて意見を言ったら、そのような考え方をしていないので採用しませんとなると、はじめから考える時間が無駄になるので、的外れな意見にならないように事前にメールで質問しようと思いますが、結論として規定路線に進みたいのか、フレキシブルに考えた意見を聞いて取り入れてくれるのか、どちらなのでしょう。
事務局	再編時期を決めるには、建物の状況や児童生徒数の推移などのタイミングをみて検討する必要がありますので、どこまでできるかははっきり言えませんが、フレキシブルにできるのであれば考えてみたいと思います。
委員	意見を出すことは問題ないということですか。
事務局	そういうご意見も当然あると思います。
委員	子どもの環境作りにしても、お金があつてのことですので、とにかくコストを抑える方向で、その中でどこにどれだけ充てていくのかという話をするのも大事だと思います。
事務局	コストは検討に入れなければいけないと思っていますが、必要なものは必要だということも言わないといけないです。
4 閉会	
会長	本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

	ありがとうございました。
事務局	委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございます。 適正規模・適正配置の基本方針の策定に向け、次回以降の項目についても具体的な審議をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
教育長	子どもの将来を見据えながら、現実のことも考えながらご意見いただきました。 難しいなということもあると思いますが、より良い計画を作ってまいりたいと思いますので、ご協力、よろしくお願いいたします。 本日はありがとうございました。
会長	以上を持ちまして、第3回高砂市新たな学校づくり推進審議会を終了いたします。